

槍ヶ岳東鎌尾根赤岩岳 雪崩事故

1950.3

神戸大学神戸工業専門学校山岳部
福田久勝

登山計画

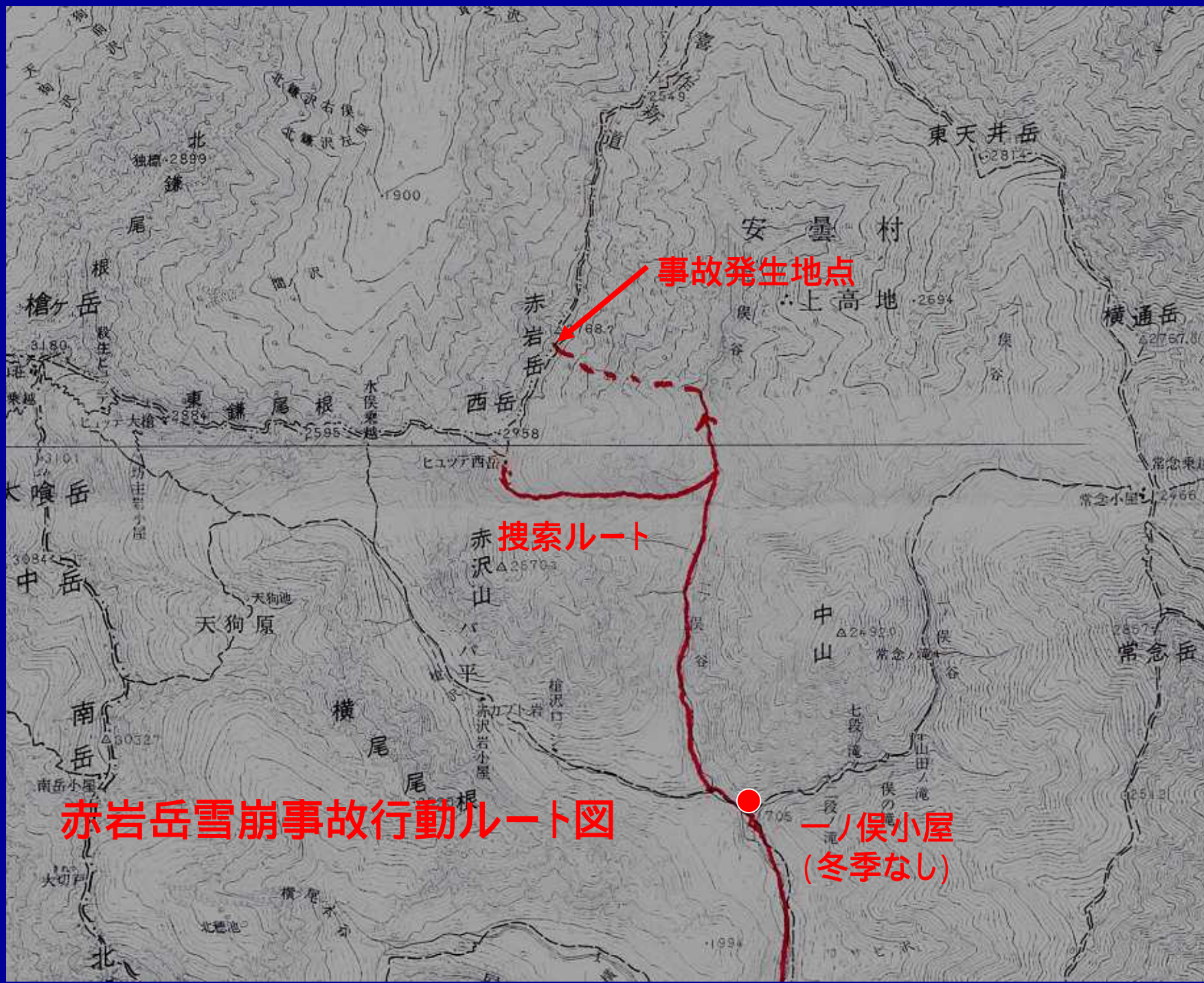
- ヒマラヤ遠征を念頭にポーターメソッド採用
- 中房温泉 燕山荘 大天井岳 赤岩岳
西岳 東鎌尾根 槍ヶ岳
- C.L 八巻、L 森、福田、
詠村(灘高)、上島(灘高)、稻垣(灘高)

行 動

- 燕山荘へ荷揚げ(4日間)
- 大天井から赤岩岳にかかる頃天候悪化
- 西岳の小屋まで進むことをリーダーが判断
- 小屋を探すも発見できず雪洞を掘る
- 西岳小屋は冬季はたたんでいた
- 3日間吹雪、食料が尽きる、衣服が濡れる
- 4日目、雪が小康状態、燕山荘へ引き返す

遭難当日(1)

- 風を避けるため稜線の10m程下をトラバース
- オーダー 八巻、詠村、森、上島、福田、稲垣
- 表層雪崩発生 八巻、詠村流されるが50m下で止まる
- ザイルを下ろそうとするも、2次雪崩発生
- 2人は一ノ俣谷(現5万匁では二ノ俣谷)へ
- 残ったメンバーで西岳から東へ延びる尾根を下降し流されたと思われる現場で搜索



事故発生地点

搜索ルート

赤岩岳雪崩事故行動ルート図

一ノ俣小屋
(冬季なし)



西岳

赤岩岳

大天井岳

一ノ俣谷(現二ノ俣谷)

2010年4月13日

000

2011

Image © 2011 DigitalGlobe
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO
Image NASA
© 2011 ZENRIN

©2010 Google

画像取得日: 2010年4月13日

36° 20'18.97" N 137° 41'28.66" E 標高 2213 m

高度 3.1

遭難当日(2)

- 真っ暗な中、叫んでも反応なし
- 2次遭難の可能性があり、一ノ俣谷、槍沢を下降
- 一ノ俣小屋はなく、横尾小屋は無人
- 小屋番のいる徳沢園に午前4時たどり着く

この遭難の原因

- 当初参加予定の多くの上級生が不参加
- それでも当初計画を他校の部員を入れて強行した
- リーダーシップ、メンバーシップの不足
- 装備の不十分
- リーダーの資質、実力の問題
- 西岳小屋の状況調査不足
- 新雪の斜面をトラバース